

## もくじ

- 平成28年度 医療安全対策室の取組み ..... ①
- 診療科紹介 外科・消化器外科 ..... ②
- 診療科紹介 眼科 ..... ③
- リウマチセンター 合同カンファレンス2016 参加報告 ..... ④

## より安全な医療をめざして ~平成28年度 医療安全対策室の取組み~

平成28年度の主な取り組みとして

多職種の連携を図り、マニュアルに基づいて医療安全の質を向上させること、

多職種が連携して、医療安全の風土を形成すること、

を挙げております。

そのため、昨年同様リスクマネジメント部会に多職種からなる以下の3つのグループワークを導入しております。

- ① チューブ管理・転倒転落防止
- ② 医療安全のためのコミュニケーション
- ③ 確実な指示出し・指示受けの徹底

グループワークを取り入れ、多職種が参加したこと、各部署の現場を頻回に訪れたこと等で徐々に効果が表れております。各グループとも、その成果を2017年3月の院内研修会（全職種）で発表し、次年度への活動へとつなげ、一層の患者さんの安全をめざしております。



リスクマネジメント部会

また、平成27年10月1日から施行された医療事故調査制度への対応で、院内のシステムの整備をおこなっております。地域医療機関の皆様には、事故調査制度に際しては、医師会を通じて、患者さんの診療に支障がない限りCTによるAutopsy imaging (Ai) のお手伝いをさせていただきます。

そのほか、以下のようなことを行い、安心して診療をうけていただける病院にしてまいります。

- ・ヒヤリハット報告、医療事故報告の調査、検討、対応、教育・啓蒙
- ・医療安全ミーティング、ラウンド
- ・医療事故防止対策委員会、リスクマネジメント部会
- ・医療安全研修会
- ・医療安全週間（11月予定） 手順遵守強化
- ・医療安全情報収集～周知
- ・マニュアル改訂、策定

医療安全には、地域の皆様との連携も重要ですので、どうかよろしくお願い申し上げます。

## 診療科紹介

## 外科・消化器外科

外科部長 衣笠 章一

当科では、食道から肛門までの消化管、肝・胆・脾・肺など実質臓器も含めた消化器外科を中心に診療しております。消化器外科領域外では甲状腺、副甲状腺疾患、各種ヘルニアなど幅広い領域の疾患を取り扱っております。当院には癌治療専門の診療科がありませんが、消化器癌に関しては手術前後の補助化学療法をはじめ進行再発癌の化学療法の多くも当科が担当しております。

治療方針は各疾患治療ガイドラインを基本としていますが、新しい治療法も吟味の上積極的に取り入れて治療にあたっております。

手術に関しては鏡視下手術を積極的に採用しており、進行胃癌や大腸癌の困難症例（閉塞、浸潤、瘻着など）を除けばほとんどの消化管と胆囊手術に行っております。近年は肝臓や脾臓など実質臓器に対してもセミナーや講習参加、術者招聘などの期間を経て症例を選んで行えるようになりました。

スタッフは副院長をはじめ7人のスタッフに加えて10月から救急科医師が1名加わり、より幅広い対応が可能になりました。今まで1名で対応していた月曜と火曜の外来診察も2名で対応できる体制になっております。

また、年々患者数が増加し治療内容も変化する化学療法に対しては、専門知識を身につけるため研修に1名があたっており、また化学療法に関する各種治験にも積極的に参加しております。30代、40代を中心のチームですがペテランスタッフが一人一人専門性を發揮して、それぞれの領域に対応していくことで地域の中核病院として皆様のご期待に充分お応えできるものと考えております。

## 地域医療機関の先生方へ

日頃より多くの患者さんをご紹介いただき、ありがとうございます。

一方でこれまで外来患者さんの待ち時間や手術までの待機日数などでご迷惑をおかけしておりました。最近では外来人員を補充し、毎週順次1~2例の待機患者さんを臨時枠で手術することでかなり解消されてきましたので今後ともご紹介よろしくお願ひいたします。

あわせて、がん患者さんの地域連携バス利用や退院後の処方、定期フォロー終了後の健康管理など引き続きよろしくお願ひいたします。

急性腹症など緊急を要とする患者さんへの対応は、日勤帯は外来担当医が、また夜間・休日は当番医が対応させていただいております。症例がございましたら、お気軽にご連絡ください。

## 外来診療表

	月	火	水	木	金
外科1診	中村	衣笠	岸	加藤	中村
外科2診	西沢	加藤	門馬		堀



## スタッフ紹介

中村 毅	昭和54年卒
衣笠 章一	平成4年卒
岸 真示	平成7年卒
堀 宏成	平成10年卒
加藤 祥穂	平成14年卒
門馬 浩行	平成15年卒
西沢 祐輔	平成20年卒
川嶋 太郎	平成20年卒 (救急科)

## 診療科紹介

## 眼科

眼科部長 薄木佳子

地域の眼科の先生はじめ他科の先生方におかれましては、日頃より患者さんのご紹介や逆紹介につき、大変お世話になりありがとうございます。

当科では主に手術治療が必要な方、あるいは手術治療が将来必要になる可能性のある方を中心に診療を行っております。外来では非常勤医師を含め臨床経験豊富な医師3名が、視能訓練士6名その他コメディカルとともにがんばっております。

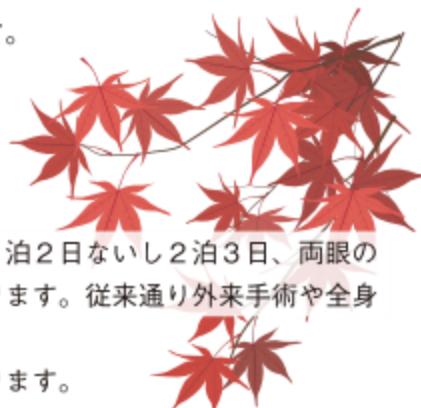
また、昨年から網膜硝子体疾患の診療に力をいれております。硝子体手術も施行できるようになり、徐々に件数を増やしております。



**スタッフ紹介** 薄木佳子 昭和60年卒  
徳川英樹 平成11年卒  
秋田ゆかり 平成16年卒

## 網膜硝子体手術

- ・黄斑疾患、増殖糖尿病網膜症、網膜剥離をはじめ難度の高い症例も含めて硝子体手術全般を行っております。緊急対応も可能です。より早期に社会復帰ができるよう工夫しております。
- ・硝子体手術の入院期間は、場合によりますが、以下の期間を要する方が多いです。
  - ・黄斑前膜：1泊2日～2泊3日
  - ・黄斑円孔：3泊4日
  - ・裂孔原性網膜剥離：7～10日



## 白内障手術

- ・保険改正に伴い、1度の入院で両眼手術が施行可能となりました。片眼の方は1泊2日ないし2泊3日、両眼の方は3泊4日ないし4泊5日の入院期間ですが、病状によりご相談に応じております。従来通り外来手術や全身麻酔による手術も可能です。

また、角膜乱視の強い患者さんには乱視矯正眼内レンズを積極的に採用しております。

手術の難度が高く、硝子体処理の必要な患者さんの手術にも対応できます。

## 涙道

- ・涙小管閉塞の方へのチューピングや、涙嚢炎の方への涙嚢鼻腔吻合術を行っております。  
TS-1など、抗がん剤使用中の方の流涙は、早めの処置を心がけております。

## 抗VEGF療法

- ・現在、加齢黄斑変性、網膜静脈閉塞症、糖尿病黄斑浮腫などの治療の主軸は、抗VEGF薬の硝子体注射です。よりスムーズな硝子体注射ができるよう、外来、手術室でのシステムを工夫しております。

## ロービジョンケア

- ・矯正不能な著しい視力障害の方に対し、生活上のアドバイスや便利な生活グッズ、拡大レンズなどを紹介しております。また対象の患者さんには他機関でのロービジョン関連イベントもご紹介しております。

## ボトックス治療

- ・顔面けいれんや眼瞼けいれんに対してボトックス治療を行っております。

## 手術実績 (H28.1～H28.8 8ヶ月分)

白内障手術	506件
眼内レンズ縫着術	9件
硝子体手術	83件
涙道チューピング	39件
涙嚢鼻腔吻合術(鼻外法)	6件
ボトックス	38件
硝子体内注射	159件

# 第5回リウマチセンター 合同カンファレンス2016 参加報告

看護部 6階西病棟師長 押部宣子



リウマチセンター合同カンファレンスは、リウマチ医療に力を入れて取組んでいる新潟県立リウマチセンターと大阪南医療センター、甲南加古川病院の3つの病院が集まり、各セクションの立場からリウマチ患者への対応を伝え、情報交換することを目的として開催してきたものです。今年は、新潟県立リウマチセンターで9月8日～9日に開催され、甲南加古川病院からリウマチ診療機能を引き継いだ当センターから医師4名、薬剤師1名、セラピスト4名、看護師4名が参加しました。

初日は、まず新潟県立リウマチセンターの院長がセンターの概要を説明されました。続いて、各セクションの立場からリウマチ治療における院内連携についての話があり、その後リウマチセンターの見学を2つのグループに分かれて行いました。リウマチ科単科の県立病院で、施設内が広くて明るく、気持ちの良い空間でした。時間の流れが穏やかで、先生や看護師、他のスタッフみなさんが、おおらかに業務されているのが印象的でした。

2日目は、各セクションに分かれて情報交換を行いました。看護部では、「関節リウマチ患者の教育」「生物学的製剤に関する看護」「院内における看護師教育」について、熱くディスカッションすることができました。

今年4月より甲南加古川病院から当センターにリウマチ診療が移管され、約半年リウマチ看護に携わる中で、リウマチ患者さんに、より高度な看護提供を行うために、何が必要かと日々模索しています。そんな中で他施設から、いろんなことを教わろうと思い、わくわくしながら情報交換会に参加しました。私が一番印象に残ったのは、リウマチ教室で日常生活指導を行うことが、患者さんにとって有意義だということです。リウマチ教室で、医療者と患者さんが対等に話し合い、患者さんから不安や疑問に思っていることを伝えていただき、それに応えることが大切だと感じました。ぜひ、当センターでも開催できるよう取り組んで行きたいと思います。

さて、来年度は、当センターが合同カンファレンスを主催します。今後も、スタッフ一同、日々自己研鑽を行い、質の高いリウマチ看護の提供ができるよう努めていきます。当センターの理念「やさしさとぬくもりのある質の高い医療を実践する」を胸に、地域の皆様にとって、よりよいリウマチ看護の提供を目指していきます。

